

第5分科会

「単位子ども会への効果的な支援（市町村子連役員・事務局関係者・単位子ども会関係者からの発表）」

■参加者

大阪府こ連事務局職員 俵 美紀

■内容

「自分の単位こども会に効果的支援を持って帰る」「必ず一つは実践する」ことを前提にグループで現在の課題、解決策を話し合った。

<グループメンバー>

宮城県子ども会育成連合会 佐藤会長
新潟県子ども会育成連合会 岡田副会長
天草市子ども会育成連絡協議会 井立様

<課題>

- ・少子化
- ・会員数の減少（役員になりたくない、子ども会に関心が無い）
- ・予算不足で活動が限られる。
- ・単位子ども会の活動が大人主体のイベント的なものになっている。
- ・コロナで活動が取りやめになり、なかなかコロナ以前に戻らない。
- ・単位子ども会の役員はベテランの方が多く、若い人の育成が必要。
- ・子どもたちの同意無く単位子ども会を解散するところが増えている。
- ・県子連の下部組織になっているユースリーダーの活動が鈍くなっている。
ジュニアも同様、コロナの影響か？
- ・学校や行政の理解がどんどん無くなっている。

<解決策>

子ども会の活動内容を理解してもらい、興味をもってもらうことが重要である。
その方法として、PTA 総会に出かけてPRさせてもらう、ホームページを活用する、
広報誌を作成する等広報に力を入れる。
また、体験してもらうなど活動を実際に見てもらい機会を作る。

■分科会に参加した感想

日頃じっくりとお話する機会の無い他県の方々と交流が出来、大変良い経験になりました。どの県でも同じような課題があることも認識できました。
府こ連でも今後は広報活動に力を入れていく必要があるため、まずはホームページを充実させていきたいと思えます。